

○令和5年7月28日（金）13：30～16：00 クラフトシビックホール土浦  
小ホールで開催

主催：関東地方整備局常陸河川国道事務所  
共催：茨城新聞社  
後援：茨城県、土浦市、茨城県市長会、  
茨城県町村会、茨城県建設業協会、  
茨城放送、NHK水戸放送局

○参加者 会場：約250人

○挨拶 茨城県知事（ビデオメッセージ）、関東地方整備局 常陸河川国道事務所長

○基調講演 防災科学技術研究所 藤原部門長「南関東地域で想定されるM7及びM8クラスの地震について」

○パネルディスカッション『大規模地震の備えと首都直下地震での茨城の役割』

### ■開催状況



受付状況



会場状況



展示状況(パネル)



展示状況(移動電源車)

### ■挨拶



茨城県 大井川知事(ビデオメッセージ)

「想定を超える災害はいつでも起こりうることを念頭に、県内外で災害が発生した場合に即座に支援できる、広域的な協力体制の構築にも積極的に取り組んで参りたい。」



関東地方整備局 常陸河川国道事務所 佐近所長

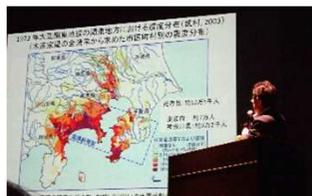
「地震災害の対応について、皆様自身のわがこととして捉えていただき、それぞれどういう対応が必要かを考えていただきたい。」

### ■基調講演

「南関東地域で想定されるM7及びM8クラスの地震について」  
防災科学技術研究所 藤原 広行 部門長



- 関東大震災における被害の特徴
  - ・地盤の弱い地域の被害が大きい
- 今後発生する地震の予測
  - ・M8クラスの地震が1回起こる間にM7クラスの地震は約10回の頻度で起こる
  - ・今後30年以内にM7クラスの地震が南関東地域のどこかで発生する確率は70%以上



講演の様子

- 地震への対策で重要なこと
  - ・何が起こり得るのか、どういったリスクがあるのかを認識し、それに対する対処をすること

### ■パネルディスカッション



パネルディスカッションの様子



藤原部門長



田村土木部長



佐近事務所長



遠藤センター長



安藤市長

### 『大規模地震の備えと首都直下地震での茨城の役割』

コーディネーター	◇防災科学技術研究所	藤原 広行 部門長
パネラー	◇茨城県県土木部	田村 央 土木部長
	◇土浦市	安藤 真理子 市長
	◇土浦協同病院救命救急センター	遠藤 彰 センター長
	◇関東地方整備局 常陸河川国道事務所	佐近 裕之 事務所長

### 主な意見

- ・緊急輸送道路ネットワークの機能強化が重要
- ・災害協定による応急復旧体制の構築が重要
- ・自主防災組織等、地域防災力の強化が重要
- ・避難者の受け入れや支援物資の提供等、支援する側の対応も必要
- ・自助共助の意識をより高めることが必要
- ・準備したこと以上のことはできないため、事前の準備が重要
- ・すべての方が災害を自分ごとと捉えることが重要